

<研究主題> 確かな学力の向上をめざす授業づくり
～主体的・対話的で深い学びの実現に向けた ICT の活用～

下関市立勝山小学校

研修の概要

確かな学力の向上のために本校の児童につけたい力を「主体的に課題に取り組む力」「話し合いを通して課題解決に向かう力」「友達との話し合いを生かして考えを深める力」と考えた。

これらの力を確実につけるため、「ICT を活用した授業づくりの工夫」に焦点を絞った。そして、魅力的な課題設定や学び合い、自らの考えを深めさせるための手立ての工夫を意識して授業づくりについて取り組むことで、一人ひとりはもちろん学校全体としての授業力向上をめざした。

研修の成果

主体的・対話的で深い学びを実現するために、協働学習において、ICT を以下のように活用して成果があった。

① 課題共有

○ 課題の提示

- ・電子黒板に課題を提示した。
- ・児童のタブレットに課題を送信することで、課題共有の徹底を図ることができた。



○ 資料・教材の配信

- ・資料、教材を配信したり、ダウンロードさせたりすることで、児童はタブレットで閲覧できた。

② 個人思考

○ 個人思考の支援

- ・容易に書いたり消したりすることができるため、試行回数が増えた。
- ・試行回数が増えることで「できる・できない」「分かる・分からぬ」の整理ができた。

○ 既習事項の想起

- ・タブレットに保存した学習履歴を閲覧することで、既習事項の想起がしやすくなった。

③ グループ思考

○ 学び合いの支援

- ・タブレット上で書いたり、消したりしている点を見合うことで論点が把握しやすくなかった。
- ・タブレット内の資料を示すことで自分の考えを分かりやすく伝えることができた。

④ 全体共有

○ 学びの足場がけ

- ・活動中、各グループの進捗を電子黒板に提示した。ほかのグループの考えを閲覧し、比較することで、自信をもつたり軌道修正したり、考えを深めたりすることができた。

○ 過程の共有

- ・電子黒板に結果を提示するだけでなく、結果に至った過程を電子黒板で再現させることで思考の可視化を図ることができた。

おわりに

研究の柱である「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた ICT の活用」を進めるにあたり、教育会の助成をいただいた。助成により、授業における ICT の有効活用につなげることができた。このことは、児童の学びへの意欲を高めたり、学ぶ筋道を理解しやすくなったり、学びを深めたりすることにつながった。

これからも授業づくりはもちろん、様々な研修を通して、教師一人ひとりの授業力向上と、学校全体の授業力向上に向け、更に精進していきたい。今後もご指導のほどよろしくお願ひいたしたい。

＜研究協議会まとめ＞

1. 良かった点や参考になったところ

- ・タブレットの使い方(学級でルールの確認ができていてスムーズだった)
- ・アニメーションで、面積の求め方が明確になり児童の印象に残る。
- ・提出箱で情報を整理し、必要な者を教師が取り出すことができた。
- ・個人で→班で→修正タイムという流れで、段階的に学びが深まっている。
- ・タブレットは、訂正が簡単で今回の学習活動ではとても効果的に使われていた。

2. 課題とその改善策

○ 授業者から・・・

＜話し合い活動を充実させるには?＞

- ・話し合いの際の視点を提示すると良い。例えば、同じ考えを集めて分類させたり、似ているところや違うところに着目させたりすれば、双方向の話し合いになった。
- ・班の中のおすすめの考え方を選ばせたり、いくつ方法を考えられたかまとめさせたりすると話し合いが活性化したと思う。

＜板書、電子黒板の使い分けは?＞

- ・板書はノートやワークシートにまとめることなど残したいものを書き、電子黒板は子どもたちの考え方など、発表で使ったり、提示したりする活動で使用するとよい。
(今回の授業での使い方がベスト！！)

○ その他・・・

- ・修正タイムはどこを修正するとよかったです？
- ・低位の児童のために具体物も準備してあるとよかったです。

グループでの話し合いの時に、発表者の方をみんなが向いて話を聞いていました。後で修正タイムがあるので、話し合いの最中に、タブレットをいじる児童も少なかったです。



＜ICTの活用について＞

○ タブレット使用時のルールを身につけよう

協議会の中でも意見が出ましたが、5年3組は学習規律が子ども達に身に付いていて、タブレット使用時のルールについても、同様にみんなが守っていました。先生や友達が話しているときは触らず、話し手の方を向いて話を聞くというルール。子ども達にきちんと守らせるのはとても難しいです。そのための手立てとして、井上先生の用意された「修正タイム」がとても有効でした。友達の発表を聞いているうちに、自分のテキストを修正したくなる子ども達もいたと思うのですが、後で「修正タイム」があるので安心して話を聞くことができました。「触ってはだめ！」と注意したり、ロック画面にしたりすることもできますが、そういうことをしなくとも自然にルールが守れるような手立てがされていて素晴らしいなと思いました。

○ 情報の整理をタブレットで

今回の授業では、子どもたちの考えをロイロノートの提出箱に提出させていました。その中から、全体で共有したい考え方を教師が選んで提示し、説明させる活動が仕組まれていました。これは、従来の学習活動ではできなかっただと思いません。ワークシートやノートに考えを書かせた後、グループで話し合い、ホワイトボード等で発表をさせることができ多かったと思うのですが、これだと、個人の考えが埋もれてしまいがちで、教師が全体に広めたい考えが全体発表で出てこないことも多かったのではないかと思います。タブレットだと、全員の考えを教師が一度に把握することができ、さらにそれを分類して整理することまでできるので、本時の授業では有効にタブレットが活用されているなと思いました。算数科だけでなく、色々な教科で活用できそうです。

＜研究協議会まとめ＞

1. 良かった点や参考になったところ

- ・1回の指示で一つの活動だったので、低学年の児童にとって分かりやすい指示の出し方だった。
- ・めあてにいつも立ち返っていた。
- ・一人ひとりの意見が大切されていた。
- ・子どもたちのつぶやきをうまく生かして授業を進めていた。
- ・考える場面がきちんと作られていた。

2. 課題とその改善策

- ・足し算型を1時間でやってもよかった。1つ例を出してもう一つを子どもに考えさせるとよかったです。
- ・もう少し時間を確保するとよかった。引き算をするときにはもう少しヒントがあるとよかった。
- ・足し算型から取り上げて、引き算型へ進めていくとよかった。
- ・説明のスキル（話型）を身につけさせるとよい。
- ・引き算型はイメージするのが難しいので、視覚的に提示するとよかった。（アニメーションなど）
- ・かけ算の良さに目をつけさせるために、同じ数のまとめをしっかりと押さえないとよかった。



自分の考えをタブレットでまとめていました。
2年生なのにとても慣れています。日頃からたくさん活用されていることが分かりました。



自分のタブレットを友だちの方に向けて、話し合いをすることができていきました。他の子どもたちもよく聞いています。

○ 話し合い活動・・・？

話し合い活動でよく起りがちなのが、「話し合い活動」をしているはずなのに、「紹介し合い活動」になってしまふことです。自分の考えを順番に話して、それを他の子どもたちはただ聞いているだけ・・・これって話し合い？自分の考えを紹介しているだけになってない？ということがよくあります。今回の授業もグループによっては、そうなってしまったところがありました。おまけに、手元には「タブレット」がありますからなおのこと、友達の発表の時には、自分の発表が気になってついタブレットを触って自分のシートを修正してしまう…なんていうこともあります。ちゃんと話し合い活動にするためには、一方通行ではなくて、双向のコミュニケーションにしなければいけません。

では「話し合い活動」にするためにはどうするか、まずは「子どもたちが話したいくなるテーマ」が大切です。友達の考えが聞きたい。聞いたら思わずどうしてなの？と質問したい！そういう発問づくりが大切です。そういう発問でなければ、活発な対話は生まれてこないし、より深い学びへとはつながっていないのではないかと思います。（昨年度の研修テーマでした！）次に、話し合い活動の時のルール作りが大切です。友達が話しているときは、タブレットに触らないということはもちろんですが、今回の授業だと、どんなことに気を付けて友達の話を聞けばよいかがはっきりしていなかったので、「自分の考えと同じところや違うところを見つけて、それを相手に伝えよう」というような聞き手側のルールがあればよかったです。また、協議会の中で「話型」の話が出ていましたが、低学年の間は「話型」を身につけさせてもいいかもしれません。話し合い活動を自分たちで進められるようになるまでは、それをルールの一つに加えてもいいかもしれませんね。

＜研究協議会まとめ＞

1. 自評から

- ・時間配分が上手くいかなかった。
- ・一つ一つの活動に時間をかけすぎた。
- ・もっと必要感を持たせることができるように授業になると良かった。

2. 良かったところや課題として上がったこと

- ・間違いを提示して、子ども達に気付かせているのが良かった。
- ・「ひなた」さんの表の使い方は例示が必要。
- ・ICTを子供たちがよく活用していた。失敗してもすぐに消してやり直すことができるので、自分の考えをいろいろ試したり、整理したりするのに役立っていた。
- ・導入段階でめあてが書けた人から、声に出して言わせるなどスムーズに授業が始まった。
- ・まとめの中の「順序良く」をしっかり押さえることができていなかった。



色遣いを工夫して、分かりやすくするなど、一人ひとりに表現の工夫が見られました。さすが6年生！

どのグループの対話活動も、とても活発に行われていました。福田学級には自信をもって友達に発言できる子どもたちがたくさんいます！また、教室掲示している「まつだ」を使って自分の考えを伝えることが意識されていました。皆さん「まつだ」使ってていますか？



＜ICTの活用について＞

○ 6年生ならではの工夫

どの学年でも、思考活動でタブレットを活用することが多いと思います。自分の考えを整理したり、失敗を気にせずにいろいろと試したりすることができるのがタブレットの良さだと感じています。今回の授業でも思考活動で大いに活用されていたのですが、さすが6年生と思ったのが、線の引き方や、色使いなど、子どもたち一人ひとりがタブレットの中で自分の表現に個性を持たせていたことです。「どのように表せば友達に提示した時に分かりやすいか、自分の考えがより伝わるのか」をしっかりと考えて、表していたように思いました。高学年になると、こんな工夫もできるのか、と驚かされました。

○ 対話活動に大切なこと

「主体的、対話的で深い学び」になるためにICTを活用しようというのが今年度の研修テーマですが、そもそも、対話活動がスムーズに行えない学級では、いくらICTを活用しても深い学びにはならないのではないかと思います。福田学級は、ペアで、グループで、と様々な形で対話活動が行われましたが、どれもとてもスムーズでした。どの子も自分の考えを自信もって話すことができていて、日頃から、伸び伸びと自分の考えを友達に話すことができているのだな、と思いました。ともすれば、高学年では相手の反応を意識するあまり、自分の考えが言えなかったり、男女のペアを恥ずかしがったりするのですが、そんなことがなく温かい雰囲気で活動が進んでいきました。学級経営は授業の基本というのは本当だな、と思いました。